

84歳を生きる



室蘭市医師会
三愛病院

やま もと てつ ぞう
山 本 哲 三

卯年生まれの会員へ「新春随想」の原稿執筆の依頼書が届いた。確かに昭和14年卯年生まれであるから令和5年の誕生日に8回目の干支を迎える。84歳になるのである。良くも悪くも感慨は一入である。

還暦を迎えるまでは残された人生のことなど考えもしなかったが、70歳を過ぎた頃から折に触れ、これから如何に生きるか考えるようになった。

時折おとずれる書店で、“老後の生き方”と題する本をパラパラ捲ってみたりした。どれも納得のできる説明はされているのだが、実行するととなると難しい。共通しているのは身辺整理（断捨離）して身軽になりなさいということである。身近なところから整理を始めてみた。まずは一番大切にしている物から実行した。50年程前に迷いに迷って購入したヤマハの音響装置である。月給が25万円の時に50万円の買い物である。それを整理するのである。

人生の岐路に立った時、仕事上や人間関係などで悩んだ時に音楽を通じて随分と力づけてもらった愛機である。それを破棄するのである。大きすぎて重すぎると家内は捨てることに大賛成である。確かに簡便軽量化がもてはやされる令和には相応しくない。75歳を過ぎた頃から難聴と耳鳴りに悩ませられ、5年以上も使っていない。

しかし、捨てるとなると“愛別離苦”である。

断捨離の原則は、3年不使用はすべて整理することらしい。

使っていないくても愛着は別である。思いが先走って整理はなかなか進まない。生存中に断捨離が完遂できるか見通しもたたない。

話は変わるが、“人は夢見て生きるという”。夢を欲と言い換えると理解が早い。仏界では五欲と呼ぶ。財・色・飲食・名・睡眠である。

私には睡眠の意味がわからない。最近不眠で悩んでいるから眠れることの有難さはある。年を重ねるごとに1つずつ欲は棄てられていく。

84歳の自分に残る夢は何だろうか。嘗て、地位・名誉・金銭的豊かさなどに固執したこともあるが、その為に判断を誤り挫折したことも一度ならずある。今は“気心腹人己（気は長く心は丸く腹立てず己は小さく他人は大きく）”を自銘としている。万事に円満を旨としている。

幸にも好意に恵まれ、令和5年も札幌⇄登別間をJRの車窓から四季の自然の移りに心癒されながら通勤することができる。感謝である。

皆様には退屈でつまらない文章になりました。ご寛容いただければ幸いです（合掌）。

いつの間にか



小樽市医師会
北海道社会事業協会 小樽病院

たか ぎ ち か
高 木 千 佳

高校生の頃、学校の近くに、お婆さんが店番をしている小さな雑貨屋さんがありました。私たち学生は、部活帰りにそこに寄り、ジュースやら、アイスクリームやらを買って小腹を満たすのが日課でした。ちゃんとした店名があったでしょうに、誰も覚えておらず、勝手に「ばっちゃんショップ」と呼び、そのお店に行くことを「ばばる」と言っていました。「今日、帰りにばばって行くべー」と小樽弁丸出しの会話が飛び交っていたものです。

今回、卯年の年女ということで、この「新春随想」の執筆依頼をいただき、還暦を迎えるということに想いを抱き、先の「ばっちゃん」に近くなったことに気が付きました。小さい頃に思っていた還暦とは大分違ってきます。身体は着々と年を重ねていきますが、頭の中は高校生の頃とあまり変わってはいないのです。還暦って、もっと威厳があって、重々しいものだと思ってました。漫画のサザエさんでいうと、「波平さん」のイメージでしょうか。

でも、漫画の設定では波平さんは54歳なので、私は、もうとっくに彼を追い越していたのです。幼い頃、カツオくんは年上でした。それが、いつの間にか年下になり、サザエさんを追い抜き、マスオさんをも追い抜いていきました。

波平さんを越える日が来るなんて。